

総合型地域スポーツクラブを核とした活力ある地域づくり推進事業実践事例

都道府県名

愛媛県

受託団体名

(財)愛媛県スポーツ振興事業団(えひめ広域スポーツセンター)

実践テーマ 「スポーツ参加意識の向上」

「学校、地域との連携による子どもから高齢者までのスポーツ活動の一層の充実を目指して」

【テーマ設定の理由】

- 1 運動しない子どもたちや運動の苦手な子どもたちに運動することの楽しさを体験させることにより、スポーツへの興味関心を高めるとともに、地域住民(保護者)のスポーツ活動への参加意識の向上を図る。
- 2 スポーツ活動になじみの少ない住民に対して、気軽にスポーツ活動に参加できるような広報活動を行うことにより、総合型クラブ「久万スピリッツ」の認知度を高め、各種スポーツ活動への参加意欲の向上を図る。
- 3 町教育委員会や学校、スポーツ競技団体や公民館などとの連携強化に努めることにより、事業が定着・継続できるような体制づくりを図る。

実践クラブ評価委員会

穂岡 謙治
県体育協会、県スポーツ少年団本部長
(総合型地域スポーツクラブ育成委員会委員長)

黒田 美勢子
県レクリエーション協会副会長
(県レクリエーション・コーディネーター会会長)

金村 毅
松山大学名誉教授
(総合型地域スポーツクラブ育成委員会委員)

中野 明彦
(元中学校校長・久万高原町在住)

岡部 琢
(県体育指導委員協議会会長)

門田 佳代
(県教育委員会保健スポーツ課指導主事)

栗田 和夫
前 日本体育協会地方企画班員
(前総合型地域スポーツクラブ育成委員会委員)

作田 拓
(県体育協会クラブ育成アドバイザー)

課題解決のために連携をとった機関・団体

- 愛媛県教育委員会保健スポーツ課
- 久万高原町教育委員会
- 久万高原町立久万小学校
- 久万高原町立久万幼稚園
- 久万高原町立美川小学校
- 久万高原町立明神小学校
- 上浮穴郡公民館連絡協議会
- NPO法人愛媛県レクリエーション協会

【上記機関・団体と連携をとった効果】

総合型クラブが関係諸機関と連携を深めながら、学校と総合型クラブが一体となって子どもをひきつけるスポーツ環境を整備することにより、保護者や地域住民を巻き込んだスポーツの輪が広がり、これまでスポーツ活動に対して関心の高くなかった子どもや地域住民のスポーツ参加意識を向上させることができた。

また、地域住民の声を広く取り入れたり、関係諸機関と連携を綿密にし、広報活動を行うことにより、誰もが参加しやすいスポーツ教室や交流の場を身近に設けることで、継続して活動することができた。

【クラブ概要】

- ・設立年月日 平成 16年 3月 18日 設立
- ・クラブ所在地 愛媛県上浮穴郡久万高原町菅生2番1644-1 久万B&G海洋センター内
- ・クラブの特色 当クラブは町民の健康づくり、生きがいづくり、青少年の健全育成を目的として、地域に根差したクラブづくりに地道に取り組んでいるものの、過疎化、少子高齢化が進む中山間地域であり、総合型クラブの会員やスポーツイベントの参加者も減少傾向にある。また、子どもの体力低下やスポーツする子としない子の二極化も問題となっており、子どもを含めた地域住民のスポーツ参加意識の向上が課題となっている。
- ・クラブマネジャーの活動状況
- ・会員数(H22.3.1現在) 105人 ・定期活動種目数 22種目
- ・会費の種類と金額 年会費:大人3,000円、小～高校生1,200円、幼児無料(保険料は別)
- ・平成21年度総予算額 2,754,220円

実践プロジェクト1

(1)小学生ニュースポーツ教室・小学生スポーツ広場(久万小学校)

◆プロジェクトのねらい

「小学生ニュースポーツ教室」・「小学生スポーツ広場」は、小学校と総合型久万スピリッツが一体となり、運動が苦手な子や運動をしない子をできるだけ多くスポーツ活動に参加させ、楽しみながらスポーツを体験し、さらに体力の向上を図ることも目的に行う事業である。

久万小学校では2年目となる今年度は、特にスポーツ少年団などに入っていない子どもや運動の苦手な子どもたちに多く呼びかけ、参加募集した。

◆実施概要

各教室の実施月は、6月、7月、10月、11月、とし、3年生から6年生を対象に、水曜日の放課後を活用して、各月2回「小学生ニュースポーツ教室」「小学生スポーツ広場」を実施した。

なお、今年度はスポーツ少年団などに入っていない子どもや運動の苦手な子どもたちが多く参加し、盛りだくさんの運動やスポーツを積極的に体験した。

- ◆参加者数 述べ154人 (第1回16人、第2回26人、第3回26人、第4回24人、第5回22人、第6回17人、第7回24人)

◆活動の様子



◆評価

子どもたちへのアンケートでは全員が「とても楽しかった」と「楽しかった」という回答であった。今回スポーツが苦手な子どもたちが多く参加し、体を動かすことの楽しさを体感させることができた。また、ニュースポーツやゲーム的要素を取り入れた体力向上、コーディネーショントレーニングなどで、子どもたちは生き生きと活動し、スポーツへの関心の高まりが見られた。また、体育専科教員が特に盛りだくさんの内容をゲーム的に楽しく指導し、運動の効果が得られたと感じている。

◆プロジェクトのねらい

「母と子のふれあい遊び」は、愛媛県エアロビクス協会の指導員を招き、親子でできる簡単なエアロビクスやふれあい遊びなどを、総合型久万スピリッツの協力により行う事業である。

親と子が一緒になって体を動かしながらふれあえる機会は、日常生活の中ではなかなか持てないため、この機会に親子で楽しみながら体を動かすことで、深く心を通わせ合い、運動する機会の拡大と体力向上を目指した。

◆実施概要

6月から12月まで5回実施し、久万幼稚園の園児と保護者を対象に、午後2時30分から3時30分までの1時間、親子でできる簡単なエアロビクスや親子ふれあい遊びを中心に、毎回いろんな内容で、親子が楽しく運動した。回を重ねるごとに参加者も増え会場をとなりの久万小学校の体育館に移し、伸び伸びと活動できた。

◆参加者数 述べ356人 (第1回50人、第2回63人、第3回65人、第4回68人、第5回110人)

◆活動の様子



◆評価

保護者を対象にしたアンケートでは、全員が「とても楽しかった」と「楽しかった」という回答であった。また、参加者の感想は、「親子でいっしょに体を動かしたり遊んだりする機会が今まで少なかったのがよかった」、「コミュニケーションがとれた、他の年長組や年少組などの保護者の方とも知り合いになれてよかった」、「また機会があればぜひ参加したい」など、よい印象であった。

◆プロジェクトのねらい

「レクリエーション広場」は、美川小学校の全校児童を対象に、愛媛県レクリエーション協会のベテラン指導員によりレクリエーションゲームやチャレンジゲームなどを、総合型久万スピリッツクラブの協力のもとに行う事業である。少しスポーツが苦手だと思っている子も、最近あまりスポーツをしていないと思っている子も、レクリエーション活動を通じて楽しく体を動かし、笑顔いっぱいみんなと一緒にゲームを楽しめるようにした。美川小学校は全校児童51名の小規模校であるため、放課後のスクールバスの待ち時間を活用して、教師も交えて行った。

◆実施概要

6月から12月まで5回実施、レクリエーションゲームからチャレンジ・ザ・ゲーム、ニュースポーツの中から毎回新しい内容で、子どもたちは今まで学校では体験できないような楽しいゲームをしながら自然と体を動かし、放課後の70分間が瞬間に過ぎたようである。運動の苦手な子どももレクリエーションの活動の中では楽しみながら体を動かしていたと感じている。

◆参加者数 述べ283人 (第1回57人、第2回57人、第3回57人、第4回57人、第5回55人)

◆活動の様子



◆評価

地域住民の誰もが気軽にスポーツ教室に参加できるようにし、また、初心者も体験しやすいように配慮した。ヨガ・ピラティス、太極拳は人気があり、回数をできるかぎり増やし年間を通じて実施できるよう配慮した。スポーツ教室の参加を呼びかけながら、定期的に無料体験による一日「スポーツ体験」の機会を設けて、参加者が自分に合ったスポーツが見つけれられるようにできた。

◆活動の様子



◆評価

子どもたちへのアンケートでは、94%が「とても楽しかった」「楽しかった」と答えており、その感想を見てみると、子どもたち一人一人の感じる楽しかったというレクリエーションの内容は様々であった。うまくできたときは楽しかったし、ゲームで負けても楽しかったなどと感想を述べている。スポーツが苦手だと思っていた子も、盛りだくさんのレクリエーション活動を通じて楽しく体を動かす体験をし、笑顔いっぱいで運動していたと感じている。

◆プロジェクトのねらい

「出前スポーツ教室」は、明神小学校の全児童対象に教育課程に位置づけて行うスポーツ教室で、小学校と緊密に連携して、総合型久万スピリッツクラブの協力のもとに行う事業である。

明神小学校は全校児童26名の小規模校であり、放課後に全員そろうことは困難であるため、授業又は、PTA活動に位置づけて行った。ニュースポーツの体験を通して、スポーツへの参加意識の向上を目指した。

◆実施概要

6月から10月の2回実施した。ニュースポーツとエアロビクスの2回の内容で、子どもたちは初めてニュースポーツ「スマイルボウリング」を体験し、いろいろな学年の子が一緒にゲームできるよう配慮し、学年を越えた交流ができたと感じている。また、エアロビクスでは保護者も一緒に参加し、親子ともにリズムにのっていろいろな動きを楽しんでいた。

◆参加者数 述べ67人 (第1回26人、第2回41人)

◆活動の様子



◆評価

子どもたちへのアンケートでは、全員が「とても楽しかった」「楽しかった」という回答であり満足度は高かった。感想では、ボウリングが初めての子が多く、うまくできる、できないにかかわらず「ゲームが楽しかった、今後も、いろいろなニュースポーツを教えてほしい」と述べている。子どもたちに楽しみながらスポーツができることを体験させることができたと感じている。

◆プロジェクトのねらい

「ダブルダッチ教室」は、ダブルダッチについての専門の講師により、美川・久万・明神小学校を一日で巡回し、スポーツ教室の一環として実施した。

このスポーツは、今までほとんど経験のない新しいスポーツに挑戦させて、新しい感動を与え、今後、新しくスポーツに取り組む子どもたちが増えていくことを期待し実施した。

◆実施概要

ダブルダッチについて、「跳ぶ人をジャンパー、ロープを回す人をターナーと言います。」という講師の説明から始まり、二本のロープの回し方や回している二本のロープの中うまく入ってリズムよく跳ぶ方法について実技を交えて行った。

みんなで「3、2、1、入る、ジャンプ・ジャンプ・ジャンプ・・・」という掛け声の練習をした。

講師の模範演技を見て、基本的な跳び方についてのイメージをつかんだあと、各班に分かれて練習した。

先生方にもロープを回していただき子どもたちは、かけ声をかけ合い、跳ぶ人がうまく入れるよう応援した。

二本のロープが回っている中に入って跳び続けるのは、普通のなわとびと違って意外と難しく、最初はロープにひっかかってしまう子が多かったが、少しずつ慣れていき、入るタイミングをつかんだ子は、5回・10回と跳べるようになってきた。

それぞれの班の中では跳ぶ子も順番待ちの子も大きな声でかけ声をかけ、うまく跳び続けることができたときには、大きな拍手をしておおいに盛り上がった。

◆参加者数 述べ126人（美川小学校52人、久万小学校48人、明神小学校26人）

◆活動の様子



◆評価

ダブルダッチの教室は、県外からプロの指導者を招いて、対象となる小学校3校で実施した。縄跳びの経験は豊富なものの、ダブルダッチは見るのもするのも初めてであったが、プロの適切な指導のおかげもあり、短い時間ではあったが、どの子も一生懸命挑戦することができた。また、中山間地域の学校においては、高度な技を持ったプロの指導者を招き、その華麗な演技を身近に見る機会はほとんどないため、おおいに喜ばれる教室となった。

子どもたちの関心の高まりを受け、教室後に早速ダブルダッチ用の縄を購入し、子どもたちに与えた学校もあり、運動へのきっかけづくりとして大変効果的なプログラムが提供できたといえる。

◆プロジェクトのねらい

気軽にできるスポーツを体験するため「スポーツ体験フェスタ」を行い、自分にあった運動を見つけ、定期的にスポーツに取り組む機会を増やすことによって、地域住民のスポーツへの参加意識を高める。

◆実施概要

住民誰もが気軽に参加でき、スポーツ教室への導入として、初心者対象の体験教室とし、エアロビクス、ヨガ・ピラティス、太極拳の3種目を2回ずつ実施した。参加者の募集に当たっては、啓発パンフレットによる広報や教室開催案内を町内の全戸へ配布して参加者を募った。ヨガ・ピラティス、太極拳については、ゆったりとした動きやリラックスした動きなど、日ごろの作業の疲れをとることも目的とし、参加者が無理なく実施できるよう、講師が工夫し実施した。

◆参加者数 延べ62人

エアロビクス(第1回7人、第2回9人)、ヨガ・ピラティス(第1回8人、第2回10人)、太極拳(第1回13人、第2回15人)

◆活動の様子



◆評価

地域住民の誰もが気軽にスポーツ教室に参加できるようにし、また、初心者も体験しやすいように配慮した。ヨガ・ピラティス、太極拳は人気があり、回数をできるかぎり増やし年間を通じて実施できるよう配慮した。スポーツ教室の参加を呼びかけながら、定期的に無料体験による一日「スポーツ体験」の機会を設けて、参加者が自分に合ったスポーツが見つけれられるようにできた。

◆プロジェクトのねらい

スポーツ教室の、エアロビクス、アクアシェイプ、ヨガ・ピラティス、太極拳の4教室については徐々に定着しており、スポーツ体験フェスタと併せて、地域住民の誰もが気軽に参加できるようにし、会員の増加を図る必要がある。

特に、ウォーキング教室や出前スポーツ教室は、新たなスポーツ人口の拡大を目指して、経験者とともに初心者にも積極的に呼びかけ、気軽にできるスポーツとしてさらに定着を図っていく。

◆実施概要

主に、「エアロビクス、アクアシェイプ、ヨガ・ピラティス、太極拳」の4教室においては、スポーツ体験フェスタを機に参加した初心者と教室に継続して参加している人が無理なく一緒になって実施できるように配慮した。(各教室の実施中も、スピリッツクラブの運営委員さんのサポートがある。)

総合型クラブの運営委員は新たな会員の確保と教室実施についての楽しい雰囲気づくりに努めている。

年間、不定期で実施しているウォーキング教室や出前スポーツ教室の開催にあたっては、専門の講師を招聘し、参加者が十分満足できるような質の高い内容で実施している。

◆参加者数 延べ526人

エアロビクス(5回一延べ48名)、アクアシェイプ(4回一延べ30名)、
ヨガ・ピラティス(9回一延べ115名)、太極拳(18回一延べ255名)、
ウォーキング(1回一延べ25名)、出前スポーツ教室(1回一延べ53名)

◆活動の様子



◆評価

エアロビクス、ヨガ・ピラティス、太極拳については初心者を勧誘し、スポーツ体験フェスタで各種目2回ずつ実施した。

エアロビクスについては、やや参加者が減少傾向であるが、太極拳、ヨガ・ピラティスは健康づくりとしてゆったりとした動きに人気があり、参加者からも好評で、今後も地域に根付いていくと思われる。

アクアシェイプは夏季限定の教室であるが、クラブ発足当初から実施している。参加者がやや固定化してきているものの、人気のある教室として、継続し根付いていくと思われる。

ウォーキング教室はベテランの講師により2年間実施し、基本的なフォームなどについての指導があり、日頃ウォーキングに親しんでいる人たちが多く参加している教室である。

日頃ウォーキングを日課としている人たちも多く、できれば毎年教室を開催し、トレッキングとも合わせて希望者を募り、日常生活の中でも気軽にできるスポーツとして継続していきたい事業である。

◆プロジェクトのねらい

サンデースポーツは日曜日を使って、年間を通じて「子どもや親子を対象にした、何でもやってみよう教室」です。主に初心者を対象としたスポーツや野外での親子が一緒になって汗を流しながらふれあいを深めるなど、気軽にスポーツが体験ができる「サンデースポーツ」のプログラムを設けることによって、地域住民のスポーツへの参加意識を高めるとともに、地域活性化につながる楽しい行事として定着していくことを目指す。

◆実施概要

「川ガキになろう」をはじめ、「初めてのサッカー」、「初めてのタグラグビー」、「しめ縄づくり」、「スキー・スノーボード教室」を年間を通じて実施した。「川ガキになろう」は、清流を生かし、親子が自然に親しみながら楽しめる事業として定着してきている。

「初めてのサッカー」、「初めてのタグラグビー」は、小学生のそれぞれの学年に応じたプログラムで初心者もスポーツが楽しめるよう工夫して実施した。

「しめ縄づくり」は、お年寄りや親子など地域の人たちが一緒になってしめ縄づくりに挑戦しており、年齢を超えた交流事業として、年末恒例の行事として実施している。

「スキー・スノーボード教室」はスキー・スノーボードともに地元の経験豊富な指導者がボランティアとして参加し、スキー場でのマナーから始まり、基礎・基本を大切に指導を行った。

氷点下7度と気温が低く、南国愛媛では珍しく良質の雪に恵まれ、実技講習の効率も良く有意義な教室であった。参加している子どもの年齢が昨年度より低年齢化しており、2年間の久万スピリッツの活動が町内に普及してきていることを強く実感することができる教室であった。

これらの事業は、今後も地元にも根付いていくと思われる。

◆参加者数 延べ175人

川ガキになろう1回(44人)、初めてのサッカー1回(30人)、初めてのタグラグビー1回(21人)、しめ縄づくり1回(46人)、スキー・スノーボード教室5回(34人)

◆活動の様子



◆評価

「川ガキになろう!!」は、雨で川が増水したために1ヶ月の延期となったが、父二峰川の清流に包まれ、大人も子どもも一緒になって川遊びを楽しんだ。みんなで力を合わせていかだを作り、それぞれのいかだを浮かべて、いかだに乗ったり、競争したりしながら大いに盛り上がった。

アンケート結果をみると、日程の変更に伴い、初めて参加した人が例年より多かった。自由時間をもっと確保してほしいという反省はあるものの、ふるさとの清流を活用した活動内容には満足しており、広報活動を広げることで今後久万高原町以外の地域からも参加者が増えることが期待される。

「初めてのサッカー」には、小学3・4年生が多く参加して行われた。今年度は、久万高原町の子どもたちと松山市内の子どもたちが一緒に練習し、交流を図った。

久万高原町は、少子化に伴い、スポーツ少年団に加入する子が減ってきており、指導者や保護者の負担も大きくなってきている。他の地域のスポーツ少年団と交流することは、技術向上面からも、人のつながりを深める面からも効果的で、単一団体では困難な事業も、総合型クラブがコーディネートすることで簡単に実現できるようになったと思われる。

「初めてのタグラグビー」は初心者の子も子どもたちが多く集まり、ラグビー協会の専門の講師の指導により、楽しみながら実技やゲームを行った。

平成29年愛媛国体のラグビー少年の部の会場として久万高原町は内定している。会場となる天然芝のラグビー場を活用して、国体に向けた町民の機運の醸成を図るためにも、総合型クラブが一役を担うことは町の行政面からの支援も受けやすく、日頃スポーツに親しんでいない子どもたちの受け皿としても事業の継続を期待するものである。

「しめ縄づくり」は年末に子どもから高齢者まで多世代が集まり、公民館や老人クラブの協力のもとで長年継続して行われている行事である。

子どもから高齢者までが、しめ縄づくりを通じて交流を図り、昔ながらの技術や文化を子どもたちに伝承していく行事として今後ともに定着していくと思われる。

地元のスキー場を活用した「スキー・スノーボード教室」には、毎年多くの子どもたちが参加しており、人気のある教室である。

一流のコーチから指導を受ける機会は少ないので、毎年参加している子どももおり、今後ますます定着していくと思われる。

その他の取組

「トレッキング」について

「トレッキング」を行いたいという地域住民からの要望により、今年度から新規事業として行った。参加者は主に中高年が多く、巡るコースについても会の代表者と参加者が話し合い、毎月1回定期的にトレッキングを開催し、季節ごとに特徴のあるコースを選んで楽しんだ。久万高原町の豊かな自然や史跡を巡るコースは、地元の人にもたいへん好評であった。

特別な指導者を必要としないこのプログラムは、低予算で開催でき、だれでも気軽に参加できることから、今後も継続しやすいものである。地域の良さを知らない若い世代にも声をかけ、口コミで参加者が広がっていくことを期待したい。

本事業の成果

・プロジェクト会議では、町体育指導委員、町レクリエーション協会、小学校関係者、公民館、町教育委員会の関係者が集まり、スポーツ活動について必ずしも関心が高くない住民を対象に、スポーツへの参加意識を向上させる取組みを行うための効果的な広報活動について検討し、運営委員の立場で連携・協力を図り事業を進めていった。

また、毎月発行している「久万スピリッツだより」だけでなく、新聞や公民館の会報誌などにも取り上げてもらえるように働きかけてもらった。その結果、連携・協力の輪が広がり関係諸機関の多く理解と協力を得ることができた。

・2年目を迎える久万小学校のスポーツ教室においては、スポーツが苦手だと思われる子どもたちや普段スポーツに親しむ機会の少ない子どもたちが多く参加して活動した。アンケート結果をみると、スポーツが苦手だと思われる子どもたちにもかかわらず、90%の子が「このような機会があれば参加してみたい」と答えており、スポーツへの関心の高まりや参加意識の向上が見られた。また、総合型クラブへの加入を希望する子も80%いるので、この子どもたちが次年度新たな会員として登録してくれることを期待したい。

・久万幼稚園では、親子のスキンシップを図る親子ふれあい遊びや簡単なエアロビクスなど、母と子と一緒に体を動かす楽しさを体験するプログラムを行った。

回を重ねるごとに参加者が増えたことは、この事業への満足度と関心の高まりを表すものであり、アンケートの中にも親子のふれあいや運動不足の解消を喜ぶ声が多く寄せられた。この事業の継続を望む声も多く、総合型クラブが幼稚園と優秀な指導者とのコーディネーターとして活動することで、子育てで忙しい女性のスポーツ参加意識の向上を図ることができたことは、高齢化が進むこの地域の若い世代に活力を与えることができたと思う。

・今年度は、町内の3校1園で、それぞれの学校に応じた特色あるプログラムを実践してきたが、各校の校長先生の所感文にも表れているようにたいへん喜ばれる内容であった。

もう一度やってみたい種目を尋ねたアンケート結果をみると、子どもたちは運動量の少ないレクリエーション活動よりも、思いっきり体を動かして運動する楽しさを求めていることや、スポーツする機会があれば積極的に参加したいと思っている子が予想以上に多いことが分かった。運動しない子をいかにスポーツ活動に参加させるかという一つの方策として、総合型クラブが学校と連携して事業を展開することによって、多くの住民のスポーツへの参加意識を向上させることができたと思われる。

本事業の課題と今後の取組

・本事業における指導者は超一流の方ばかりで、これをすべてクラブマネジャーの人脈を通して、日程調整や会場準備の交渉を行っているのが現状である。この人と人とのつながりが宝物ではあるが、今後、西田氏のようなクラブマネジャーがいなくなったときに、久万スピリッツクラブの活動が衰退していくことが危惧される。

また、今後は、町外からの指導者に頼ることなく、ニュースポーツやレクリエーション等の地元の指導者を養成し、日常的に協力が得られるような人材バンクの整備が必要である。

・行政の施設利用の便宜や地元開放は最低限必要であるが、個人の力に依存していたのでは限りがあり、クラブマネジャーや運営委員など本当に熱心に活動している人たちが、挫折したり枯れてしまうようなことがないように、行政のバックアップを期待したい。

・久万スピリッツの活動を継続させていくためには、学校、行政の支援・協力が必要である。
今回の事業で新しい発見があった健康づくりやニュースポーツ、レクリエーションなどの楽しさを享受した地域の住民たちが、総合型クラブの活動を支える新たな力となって協力体制を築き、これを今後も継続されていくことを期待したい。

・人口が少なく、面積が本県で一番広い当地域では、出前教室が有効であるが、子どもたちだけでなく地元の高齢者、婦人会なども一緒に参加できる幅広い活動を取り入れていくことが必要である。

・この事業を2年間展開して、地域の子どもたちにとっては非常に効果が上がっていることは事実である。そして、それがモチベーションの高まるような流れとなることが大切であり、次年度以降の活動にどうつなげていくかが今後の課題である。

(本件問合せ先: (財)愛媛県スポーツ振興事業団(えひめ広域スポーツセンター)

TEL089-963-2216